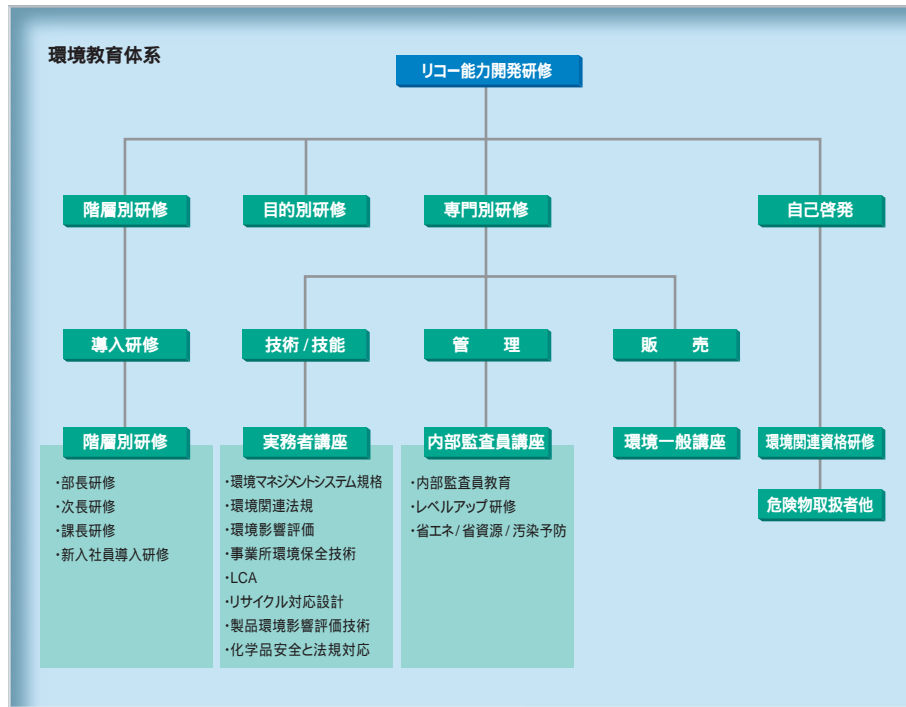


環境教育・啓発

環境経営を実現するためには、トップの意思表示や各部門での積極的な活動はもちろん、社員一人ひとりの意識改革を促すための活動が重要です。なぜなら、環境保全は企業としての活動ではあるものの、実際は社員一人ひとりが行っている活動だからです。社員の意識の持ち方によって、同じ活動でも、その成果は大きく異なってきます。リコーグループでは、社員への環境教育をはじめ、ノウハウの共有化、社員の自発的意思のサポート、活動に対する表彰、意識調査など、社員の意識改革を促すためにさまざまな活動を行っています。



環境教育

リコーグループでは、環境活動への理解を深め、環境活動のプロフェッショナルを育成するための教育体系を設け、新入社員導入研修、設計技術者研修、環境マネジメントシステムの内部監査員講座などを開講しています。また、公害防止管理者や作業環境測定士など公的資格取得の支援や、環境保全に功績のあった社員に対する社内表彰制度も設けています。

環境関連講座(受講者数)

| 研修名 | 1998年度 | 1999年度 | 2000年度 |
|-----------------------|--------|--------|--------|
| リサイクル対応設計 | 18 | 21 | 32 |
| 製品環境影響評価技術 (機器製品編) | 22 | 22 | 26 |
| 環境関連法規 | 52 | 81 | 66 |
| 環境マネジメントシステム規格 | 69 | 8 | 30 |
| LCA | 20 | 46 | 0 |
| 化学品安全と法規制対応 ～初級～ | 19 | 29 | 25 |
| 化学品安全と法規制対応 ～上級～ | 18 | 26 | 16 |
| 事業所環境保全技術 | 16 | | 10 |
| 環境影響評価(事業所編) | 36 | | 13 |
| 合計(人) | 270 | 233 | 218 |

社内報や環境情報誌などによる啓発活動

リコーの社内報には、グループ内の環境活動の紹介や、受賞などの社会的評価に関するニュースが掲載されています。これは社員に情報を伝えるだけでなく、企業として環境に積極的に取り組んでいく意思を社内に伝えるものでもあります。また、「ECO TODAY」という環境情報誌も定期的に発行。各部門での環境への取り組みはもちろん、環境NPOの方々の考え方も紹介し、幅広い角度から社内啓発を行っています。



リコーグループの環境情報誌「ECO TODAY」

ネットワークによるノウハウの水平展開

リコーは、最新の環境情報を、全世界のリコーグループ各社から閲覧・掲載できるデータベースを構築。それぞれの部門でグループ内の最新の事例をベンチマークし、いちはやくそのノウハウを導入、さらに新たな視点でノウハウに磨きをかけることで、より高い効果をあげています。

環境大会

リコーグループは、1995年から毎年「全社環境大会」を開催し、2000年開催の第6回大会からは、グローバルなリコーグループ全体の環境大会に拡大しました。2001年1月開催の第7回大会では、アメリカREIのごみゼロ推進の事例や、リコーインダストリーフランスの水資源の節約事例などの発表とともに、経営トップ層による「環境経営」の方針発表も行われ、グローバル環境経営がリコーグループ全体の大きなテーマになってきたことを示しています。

また、リコーユニテックでは2000年11月に「環境コミュニケーション2000」を開催。工場の環境活動事例だけでなく、家庭での環境保全のアイデアも発表する内容の濃い大会でした。また、近隣の小学校の児童達に環境に関する絵を描いてもらい表彰を行うなど、地域コミュニケーションの場としても活用されました。



リコーグループの環境大会(第7回)



リコーユニテックの「環境コミュニケーション2000」

環境ボランティアリーダーの養成

社員の意識の高まりをサポートするしくみづくり先重要です。リコーグループは、社会貢献としてだけでなく、社員の意識啓発の手段としても環境ボランティアを重視しています。リコーは、社員が自発的に参加できる活動の場を提供するために「環境ボランティアリーダー養成プログラム*」を実施。社員の環境保全への意識は、頭で理解するだけでなく、体を動かして体験することによって、より強く、正しく高まっています。

* 53~54ページを参照。

環境活動に対する表彰制度

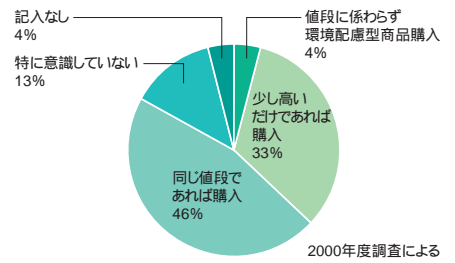
リコーには、リコーグループ社員の活動を表彰する「みのり賞」という制度があり、このなかで環境保全に関する活動に対しても表彰を行っています。2000年度は「工場省エネ推進活動」「再生カードリッジ事業化活動」「事業所リサイクル活動」などが受賞しました。

意識調査

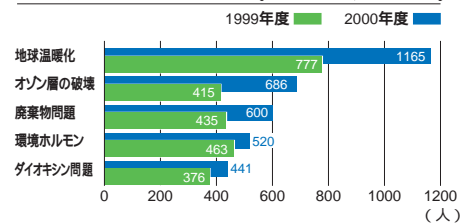
リコーは、環境啓発・教育に積極的に取り組むとともに、その効果を把握するために、意識調査を実施しています。2000年度は、1916名(15.6%)の回答が集まりました。1999年度の1266名に比べ、社員の環境意識が高まっていることを示しています。日常業務のなかで、節電、ごみの分別、紙の節約などの環境負荷削減活動に取り組んでいると答えた社員は88%でした。また、環境にやさしくアプライアンス(使いやすい)提案としては、消せるコピー*、省エネモードからすぐに立ち上がる複写機*、トナーの低温定着などがあげられました。

* 意識調査は2000年6月に実施。この時点では、消せるコピー、省エネモードからすぐに立ち上がる複写機については製品発表されていませんでした。消せるコピーは37ページ、省エネモードからすぐに立ち上がる複写機は36ページを参照。

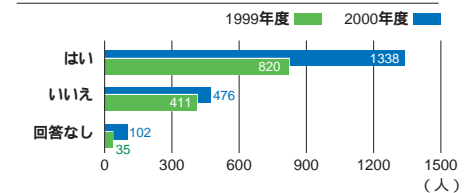
個人の消費活動における環境配慮型商品への意識



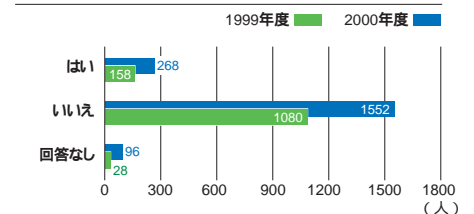
環境問題について関心がある事項(複数回答可、上位5項目)



環境ボランティアに興味がある

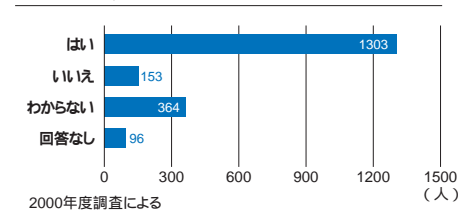


環境ボランティアに参加したことがある

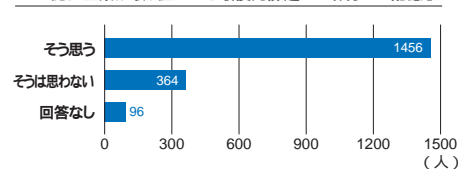


1999年度と同様、2000年度も環境ボランティアへの興味は高いものの、参加した人は少ないことを示しています。今後も環境ボランティアリーダーの養成や、環境ボランティアリーダーの活動を積極的に推進していく必要があることが読み取れます。

環境保全は、利益や企業価値増大に結びつく?



21世紀に企業が取り組むべき最優先課題は「環境への配慮」?



「そうは思わない」という回答の方々には「雇用・人権問題」「技術革新」などを最優先課題としてあげています。

2000年度調査による